	実際の様子	どう調整したか
1時間目と課題提出	公式ニュースやNPO団体といった、新聞記事のように公的な性格が強い動画が一定数提出された。	2時間目の導入として、テレビ局のニュース動画と個人発信の切り抜き動画を比較させる活動を取り入れ、発信者や演出という違いに注目させ、授業者と生徒のあいだで目線を合わせるために活用した。
学校司書とMTG1	公民科としての授業者のねらいを共有しながら、学校図書館の環境を活かした 活動やチームティーチングの役割分担を協議した。 学校司書からの提案 ・授業者が「家庭で新聞を購読している人はいるか」と質問することで高校生の メディア利用の実態を共有すること。 ・学校司書が新聞記事の構成（見出し、リード、本文、著者など）や読み方を ガイダンスすること。	
2時間目	①「動画の数が多くてどれを分析してよいかわからない」「主張や根拠がわからない」といった様子。 ②（個人発信による切り抜き動画について）「首相が野党議員と戦っているような雰囲気でドパガキ向けだ」という発言。	①そもそも根拠がなく、それを書けないことがショート動画の特徴だと3時間目冒頭で説明した。 ②核心をつく発言であると考え、全体で共有した。
学校司書とMTG2	2時間目の授業で生徒が選択・分析したショート動画の題材をもとに、学校司書と ともに学校図書館で配布する新聞記事を選定した。 選定された新聞記事 ・公約一覧や選挙情勢といった「衆議院選挙全般に関する記事」 ・自民党、中道改革連合、参政党といった「特定の政党に関する記事」 ・6紙すべてにおける「SNSと選挙に関する記事」	
3時間目	①ほとんどの生徒が日常的に新聞記事にふれていないこともあり、分析が思うように進まないグループも見られた。 ②仕分けした記事以外の社会面や広告欄に関心を示す生徒が複数見られた。	①分析が進まないグループには、授業者や学校司書が補助発問や読解の援助をした。 ②目当ての記事以外の多様な情報が視界に入る「一覧性」が新聞記事の特徴の一つであることを補足した。